

## 現代住宅作品における関係の複合性(2)

—作品解説からみた空間構成要素とその関係図式—

複合性 関係 現代住宅作品 言説 建築家

正会員 ○ 青木 弘司\*  
同 山田 深\*\*  
同 佐々木 夕介\*\*\*

1. 序 前編では、言説に現れる空間構成要素とその関係の表現を基に関係図式を作成し、それらのトポロジカルな側面について、関係の結合パターンを考察した。引き続き本編では、結合パターンの組合せを類型化し、さらに空間構成要素のカテゴリーを重ね合わせて分析することから、言説に現れる建築の関係の複合性を明らかにする。

2. 結合パターンと空間構成要素の重ね合わせ 関係図式を全資料<sup>1)</sup>について検討すると、結合パターンの組合せは、一種の組合せである4つの類型の他に、多種の組合せとして大枠5つの類型を得ることができた。この合計9つの組合せの類型に、空間構成要素を重ね合わせて分析・検討すると、関係図式における建築家の思考の“重心”の分布から関係の複合性における5つの類型が導かれた(表1)。このことから、①“重心”が建築構成要素に分布するパターンと、②“重心”が建築構成要素と外部環境要素に横断的に分布するパターンが多くみられることがわかる。特に①においては、多種の結合パターンを組合せているもの、中でも《鎖型》あるいは《集合型》を中心としてその他の結合パターンを組合せたものが多くみられる。以下、ここで得られた5つの類型について、各々典型例(図1)を挙げながら考察する。

①“重心”が建築構成要素に分布するパターン:(8)は、2つの《放射型》が《鎖型》を伴う組合せであり、2つの《放射型》の中心が共に[材質・仕上げ]と[部位]に集中して現れ、[室][自然要素]において《鎖型》を伴うことで全体が連続的に思考されているが、建築構成要素において2つの《放射型》による明快な重心が見出せることや、[室]や[部位]についての空間構成要素が多く語られていることで、全体としては建築構成要素と外部環境要素に渡って横断的に図式が分布しながらも、建築構成要素に思考の重心が偏って分布しているといえる。

②“重心”が建築構成要素と外部環境要素に横断的に分布するパターン:(39)は、《鎖型》が《包含型》を伴う組合せであり、《鎖型》による、建築構成要素と外部環境要素に横断的な思考の中に、《包含型》や<動線の接続><視線の接続>を伴うことで重心をつくり出している。[ヴォリューム・形態]と[材質・仕上げ]において《包含型》が現れていることや、[敷地]と[隣接要素]における《鎖型》が<動線の接続>を伴うことで、連続的な図式の中に密な関係性を読み取ることができる。

③関係図式および“重心”が建築構成要素にのみ分布するパターン:(28)は、[部位]において《鎖型》が現れる以外は結合パターンを持たない図式であるが、空間構成要素の大部分が[材質・仕上げ]と[部位]に集

中して分布し、外部環境要素との関係が一切語られていない例である。このことから、ここでは建築家が、建築における様々な水準の中で[材質・仕上げ]と[部位]とに限定して関係性を思考していると捉えることができる。

④“重心”が外部環境要素に分布するパターン:(70)は、外部環境要素における[敷地]を中心とした《放射型》によって関係図式がつけられている例であるが、全ての<意味・現象的な関係>が[敷地]に集中することで建築家の思考の重心を明快に読み取ることができる。建築構成要素は[部位]のみに限定され、空間を構築する全ての要素が[敷地]との関係として思考されている例である。

⑤“重心”が建築構成要素と外部環境要素に分散するパターン:(66)は、[室]や[部位]といった建築構成要素における<意味・現象的な関係>と外部環境要素における<意味・現象的な関係>の両者が関係付けられていない例であり、建築構成要素と外部環境要素に渡った横断的な思考の中に重心を分散させている②とは対比的である。

以上の考察と、前編での各結合パターンにおける横断的な考察とから、《放射型》は異なる結合パターンを伴うことで明快な重心を置ながらも、全体として連続的な関係が思考され、また《鎖型》は異なる結合パターンを伴うことで、連続的な思考の中に重心を分散させていると言える。つまり、《放射型》による実体的な要素同士の関係とは、まずある特定の要素に部分としての重心が現れながらも、建築を取り巻く様々な水準に渡って連続した空間となるものとして捉えられ、《鎖型》による関係とは、まず連続的な要素同士の関係が構築される中に、部分としての重心が置かれることで空間に疎密が現れるものとして捉えられる。

このように実体としての建築に現象する関係の複合性から、建築家が空間を構築する上で、実体的な要素同士をどのように関係付けて思考しているかという、現代における2つの特徴的な関係のモデルを明らかにした。

3. むすび 以上、建築の複合的な関係を、結合パターンの組合せの類型に建築家の思考の重心を加味して空間構成要素のカテゴリーを重ね合わせることで考察した。その結果、重心が建築構成要素に分布するパターン、建築構成要素と外部環境要素の両者に渡って横断的に分布するパターンなど5つのパターンとして整理でき、さらに《放射型》と《鎖型》の間に関係の複合性における建築家の思考の違いがあること等を見ることができた。

註

1) 本稿では前編と同じ資料を扱っている。

表1 関係の複合性における“重心”の分布/結合パタンの組み合わせと空間構成要素の重ね合わせ

		“重心”の分布		①	②	③	④	⑤	
結合パタンの組合せ				建築構成要素に分布	建築構成要素と外部環境要素に横断的に分布	建築構成要素に分布	外部環境要素に分布	建築構成要素と外部環境要素に分散	
一 種	Ⓐ(放射型)の組合せ			57 55		63		70	
	Ⓑ(鎖型)の組合せ			45 59		7 52 29 54 30 58 44 64 49	28		
	Ⓒ(包含型)の組合せ			35	16		13 34		
	Ⓓ(集合型)の組合せ			6	1 20 31 47 69 71	46		66	
多 種	1つのⒶ(放射型)と異なる結合パタンの組合せ			22 38 43	12 23 42		37 53		
	2つのⒶ(放射型)と異なる結合パタンの組合せ			2 8	4 14 25 27			17 50	
	Ⓑ(鎖型)と異なる結合パタンの組合せ			11 51 26 61 32 67 33 72 40	9 39 62	41 60 68			
	Ⓒ(包含型)と異なる結合パタンの組合せ			15 24	21 56				
	Ⓓ(集合型)と異なる結合パタンの組合せ			5 10 18 19 36 48	3 65				
		表1註: 各パタンの右の数字は資料番号を示す 凡例:  関係図式  “重心”の分布  結合パタンの位置							
建築構成要素	尺度	①	②	③	④	⑤			
	家具・設備								
	材質・仕上げ								
	部位								
	室								
	ヴォリューム形態								
	敷地								
外部環境要素	隣接要素								
	自然要素								
図1 典型例	資料No.8 常盤台の住まい / 平倉重子 2つのⒶ(放射型)と異なる結合パタンの組み合わせ “重心”が建築構成要素に分布	資料No.39 仙川の住宅/佐藤光彦 Ⓑ(鎖型)と異なる結合パタンの組み合わせ “重心”が建築構成要素と外部環境要素に横断的に分布	資料No.28 一本松ハウス / 藤森照信 Ⓑ(鎖型)の組み合わせ 関係図式と“重心”が建築構成要素にのみ分布	資料No.70 ZIG HOUSE / ZAG HOUSE 古谷謙一 Ⓐ(放射型)の組み合わせ “重心”が外部環境要素に分布	資料No.66 中心性/齋藤 / 八重樫理人 Ⓓ(集合型)の組み合わせ “重心”が建築構成要素に分散				

\* 藤本社建築設計事務所  
\*\* 室蘭工業大学建設システム工学科講師  
\*\*\* 室蘭工業大学大学院

\*Sousuke Fujimoto Architects  
\*\*Lecturer, Dept. of Civil Engineering and Architecture, Faculty of Engineering  
Muroran Institute of Technology  
\*\*\*Graduate School, Muroran Institute of Technology